

導入1年 400社超が設置

日本の上場企業の統治形態は3種類

	監査役会設置会社	指名委員会等設置会社	監査等委員会設置会社
導入	1993年10月	2003年4月 (当時の名称は「委員会等設置会社」)	2015年5月
構成	監督=取締役会 監査=監査役会 業務執行=取締役	監督・監査=取締役会 (指名、報酬、監査の3委員会を設置) 業務執行=執行役	監督・監査=取締役会 (監査等委員会を設置) 業務執行=取締役
特徴	・監査役会は3人以上で、半数以上は社外監査役。常勤が必要 ・重要決定は取締役会で決議 ・任意委員会の設置が可能	・3委員会はいずれも3人以上で、過半数は社外取締役(兼務も可) ・重要決定を執行役に委任可能	・監査等委員会は3人以上で、過半数は社外取締役 ・重要決定を取締役に委任可能 ・任意委員会の設置が可能
必要な社外役員	社外取締役2人以上+社外監査役2人以上	社外取締役2人以上	社外取締役2人以上

「監査等委」割れる評価

昨年施行の改正会社法で導入された「監査等委員会設置会社」制度の評価が割れている。従来の監査役に代わり、社外取締役を主体とする監査等委員会を置いて経営の監視を強化する狙いで、1年間で400社超が移行した。だが外国投資家や専門家からは「中途半端で統治改革を後退させている」との批判も出ている。実態はどうか。(編集委員 渋谷高弘)

「監査等委設置会社へ」されたが反対票は2割近くは現状からの改善にすぎない。米ソコに本拠を置く運用会社RMBキャピタルは今年3月、インターネット広告大手、オプトホールディング(HD)の株主総会で監査役会設置会社からの移行に反対した。権を握り、株主価値向上

「監査等委設置会社」に努める仕組みを担保する。RMBの株式保有割合の5%超を上回った。RMBの細水政和は「日本株式投資部長は「石を投じ、少数株主から賛同を得た」と話す。細水氏は「企業統治の核心は、社外取締役が経営陣の選任・解任の主導と強調。「法的効力のない任意の指名委員会の設

「改革が中途半端」「迅速に意思決定」

「批判は想定内」
監査等委設置会社の制度は昨年施行された改正会社法で盛り込まれた。法改正にかかわった法律関係者は「改正の経緯を振り返れば批判は予測された」と認める。安倍政権は企業の「稼ぐ力」を高めるため、統治改革を成長戦略として推進。上場企業には改正会社法だけでなく、東京証券取引所などが制定した

「指名委等」に移行
「指名委等設置会社に移行した経緯は。『さかのぼれば1980年代末の米ファイナンス買収が大失敗したことが、プライドの高い米国人最高

「監査等委」に移行
「監査等委設置会社を選んだ理由は。『1年間にわたって3つの統治形態を比較したが、(外国投資家が求める)『監査等委』に移行

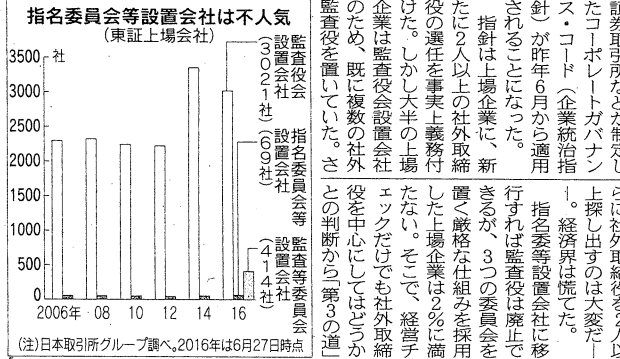
プリチストンCEO
津谷 正明氏

「指名委等」に移行
「指名委等設置会社に移行した経緯は。『さかのぼれば1980年代末の米ファイナンス買収が大失敗したことが、プライドの高い米国人最高

「監査等委」に移行
「監査等委設置会社を選んだ理由は。『1年間にわたって3つの統治形態を比較したが、(外国投資家が求める)『監査等委』に移行

セイコーエプソン社長
碓井 稔氏

競争力の源泉 考慮
「社外取締役は次期トップの迅速性、(技術)を基礎とする。当社の競争力を踏まえ、最速と判断したから」



「社外取締役は次期トップの迅速性、(技術)を基礎とする。当社の競争力を踏まえ、最速と判断したから」

「当社には任意の指名委員会と報酬委員会があるの」

「透明性を重視するならば、社外取締役が無責任にトップを替えて、ガタガタにならなければならない。統治の設計は自社の競争力の源泉を考慮して決めるべきだ」

「社外取締役は次期トップの迅速性、(技術)を基礎とする。当社の競争力を踏まえ、最速と判断したから」

「当社には任意の指名委員会と報酬委員会があるの」

「透明性を重視するならば、社外取締役が無責任にトップを替えて、ガタガタにならなければならない。統治の設計は自社の競争力の源泉を考慮して決めるべきだ」

「監査等委設置会社」に努める仕組みを担保する。RMBの株式保有割合の5%超を上回った。RMBの細水政和は「日本株式投資部長は「石を投じ、少数株主から賛同を得た」と話す。細水氏は「企業統治の核心は、社外取締役が経営陣の選任・解任の主導と強調。「法的効力のない任意の指名委員会の設

「批判は想定内」
監査等委設置会社の制度は昨年施行された改正会社法で盛り込まれた。法改正にかかわった法律関係者は「改正の経緯を振り返れば批判は予測された」と認める。安倍政権は企業の「稼ぐ力」を高めるため、統治改革を成長戦略として推進。上場企業には改正会社法だけでなく、東京証券取引所などが制定した

「社外取締役は次期トップの迅速性、(技術)を基礎とする。当社の競争力を踏まえ、最速と判断したから」

「当社には任意の指名委員会と報酬委員会があるの」

「透明性を重視するならば、社外取締役が無責任にトップを替えて、ガタガタにならなければならない。統治の設計は自社の競争力の源泉を考慮して決めるべきだ」